



給水車による飲料水の供給

市では、防災関係機関相互の協力を体制を確立するため、9月2日に総合防災訓練を行いました。
訓練は、大型台風の影響に伴う大雨による浸水・土砂災害、住民の避難開始後の地震発生という複合災害を想定。災害対策本部の設置運営訓練のほか、水沢・佐倉河・姉体・羽田・江刺愛宕・藤里・伊手・広瀬・南都田・前沢・衣里の各振興会、自主防災組織などと協力しながら、災害対策本部から緊急告知ラジオを通して発信した避難情報を合図に、市民約2100人が参加して避難誘導訓練などを実施しました。

また、水沢地区センターでは、これらの訓練に加えて、応急給水訓練、応急炊き出し訓練、心肺蘇生法実施訓練、負傷者応急手当処置訓練などを実施しました。

防災訓練を実施しました



模型を用いた心臓マッサージで、力を加える位置や強さを確認

資料で見ただけでなく、実際に体験してみても、なるほどと思いました。高齢者世帯が多く、助ける人も高齢なので、誰がどのようにお世話をするのが地域の課題です。

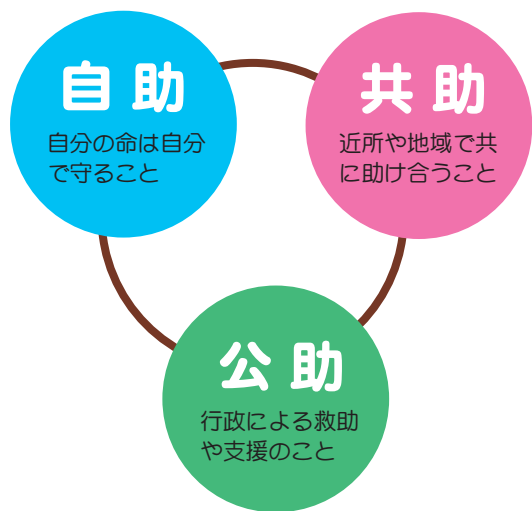
藤原 紘一 さん
川口町行政課長



ハイゼックス炊飯袋に米と水を入れ、約30分煮るとご飯の完成

奥州市水沢赤十字奉仕団委員長 菅原 宏幸 さん
炊き出し訓練の作業自体は難しいものではないが慣れは必要。いざというときに行動できるように日頃の備えが大事だと思います。

◆自助の準備と共助の心掛けを
大きな災害が起こったとき、まずは自分の命は自分で守るということが大切です。自分の命を守れないければ、他の人の命を守ることはできません。
自分の安全が確保できたら、近所や地域にも目を向けてください。子どもが留守番をしていたり、1人暮らしの高齢者が困っているかもしれない。多くの人が被災する災害では、共助の精神がとても重要です。
人は時間が経つとその記憶が薄れてしまいます。東日本大震災が起こったとき、蛇口から水が出なかったり、電気がつかなくなったり、当たり前と思っていたことが当たり前ではなかったことに気付かされました。あれから7年6カ月が経過しました。そのとき準備した非常食はまだ食べられますか？ 懐中電灯はつきますか？
科学や技術が発達する今でも、残念ながら災害を100%防ぐことはできません。しかし、備えることで被害を減らすことはできます。それには、皆さん一人一人の行動がとても大切です。準備しておくことで冷静、適切に対処することができます。



災害はいつ起こるか分かりません。日頃から災害に備え、家庭内で防災対策について話し合い、いざというときの対応を確認しておきましょう。一人一人の行動が、いざというときにはとても大きな役割を果たします。家族や近所・地域の皆さんで役割分担をしながら、力を合わせて助け合いましょ。



ハザードマップ利用のポイント

1 自宅周辺を知る

自宅やその周辺が、土砂災害警戒区域や浸水想定区域などの危険箇所に含まれていないか、地図で確認しましょう。
▶▶▶北上川、衣川以外の河川、堰、水路などのハザード情報は掲載していません。自宅の近くにあ

ふれやすい水路などがいないか、地域の皆さんと確認することも大切です。
▶▶▶過去にあった災害の状況を書き込んだり、以前と地形が異なっている箇所などを記入してみることも有効です。

2 避難所などを知る

自宅周辺の避難所などを、地図で確認しましょう。避難所などは、ハザードマップの後方に一覧で掲載しています。
▶▶▶震災時・水害時で避難場所が変わる地域がありますので、よく確認してください。
▶▶▶家族が家にそろっているときに災害が発生するとは限りません。家族の集合場所なども決めておきましょう。



- 避難場所（指定緊急避難場所）
地震、洪水、土砂災害など災害の種類に応じて定められた身の安全を守るための広場や公園など
- 避難所（指定避難所）
立ち退き避難や災害発生などにより自宅に戻れない人が一時的に生活する施設
- 第1次収容避難所…災害発生時に1番目に開設する避難所
- 水害時第1次収容避難所…水害のため第1次収容避難所が開設できない場合に開設する避難所
- 第2次収容避難所…第1次収容避難所に収容しきれない場合に開設する避難所

3 避難経路を検討する

避難所などまでの避難経路に、水路やマンホールなど危険箇所がないか確認しましょう。危険箇所が含まれる場合は、別な避難所などはどこか、他の避難ルートはどこか確認しましょう。家族全員で、避難所などまでの避難経路を確認し、実際に歩いてみましょう。

アンダーパスに注意！

道路や鉄道などが立体交差する場合、その下側を通る地下道をアンダーパスといいます。大雨や洪水などがあつた場合、アンダーパスの道路は真っ先に浸水します。もしもに備えて迂回路を検討しましょう。普通自動車は30cmの浸水でも走行困難になります。

4 防災訓練で体験する

自主防災組織、職場などで防災訓練を計画し、実際に避難してみましょう。

ハザードマップ出前講座

地域や職場などでハザードマップの利用方法について学んでみませんか？ 担当職員がスライドを使って、分かりやすく説明します。費用はかかりません。本庁危機管理課（内線223）へご相談ください。

